

C-65 女子大学生の着衣状態について (第3報)
神戸大教育 稲垣和子

目的 近年、私共の衣生活の実態は相当変遷してきた。特に生活環境も次第に快適に改善せられ、新繊維が出現し、戦前との様相には大差がみられる。I. B. P. 耐寒耐熱班、衣任小委員会、日本家政学会被服構成学研究会、衣服学会の三者による衣服調査の予備調査として、演者は先に女子大学生の衣生活の実態につき一年間の着衣状態(平常着・外出着・作業着・寝具及び寝衣・雨衣について)を調査し、前報までに平常着・外出着・作業着の着用時における月別寒暑感覚、寒暑感覚と体格との関係、衣服全重量の月変化、肩及び腰にかかる重量分布の月変化、被服材料の種類別利用度の月変化などについて発表した。今回は引き続き寝具及び寝衣について結果を種々検討したので報告する。

方法 前回同様、タナックカードを利用して調査結果を整理した。

結果 一年間を通じ、敷布団の重量には夏冬間に大差は認められないが、掛布団の重量は月別変化が大である。又、寝衣重量は冬季は夏季の約2倍であった。その他、寒暑感覚、暖房と寝具寝衣との関係についても若干の知見を得たので之等についても報告する。